

Q

シルバー人材センターへの支援

小川 茂 議員



A

積極的な活用と支援を行う

質問一 公共事業の受注実績状況について。

二 公共事業におけるシルバー人材センターの活用について。

三 会員増加策の支援について。

答弁一(市長) 市では、高齢者の就業と社会参加の促進を図るため、鶴ヶ島市シルバー人材センターを積極的に活用している。市を含む公共的団体からの受注実績は、

平成25年度は96件、9440万5988円、26年度は94件、9862万5184円である。

二 27年度における市からの発注予定業務の予算額は、約1億2100万円である。これまでの業務のほか、新たに小学校算数数学力向上支援員の派遣業務や子育て世帯応援事業関連業務などを発注している。今後も高齢者の知識や経験



シルバー人材センターの会員による作業

Q

なぜ坂戸市に負けたのか

長谷川 清 議員



A

現時点における最善の判断である

を生かせる業務に活用していく。
三 会員数は、25年度末から26年度末で43人増加している。しかし、男性449人、女性152人と、性別に偏りがあることから、会員増加策の支援は、女性会員をいかに増やすかがポイントになると考える。介護保険制度における生活支援分野など、情報交換を行いつながら会員増加策の支援をしていく。
◎その他の質問 老人クラブへの支援について

質問一 坂戸市との交渉の経緯と内容について。
二 「広域静苑組合加入」という交渉カードを使わなかった理由は。
三 富士見保育所の跡地はどうするのか。
答弁一(市長) 坂戸鶴ヶ島医師会から要望のあった坂戸市と鶴ヶ島市の初期救急医療体制及び包括的医療介護連携拠点の整備については、昨年来、両市で提示した候補地のいずれかへの建設を前提に、医師会主導で議論してきた。その後、医師会と両市による調整会議で、坂戸市に初期救急医療体制を、鶴ヶ島市に包括的医療介護連携拠

点を開設するとの分離案が医師会から提示された。しかし、3者の十分な合意形成がなく、内容にも課題があるため、この案には乗らず、改めて検討することとした。
二 坂戸市の広域静苑組合への加入は、構成団体である本市ほか3町の協議による組合の意思決定に基づくものである。初期救急医療体制等とは別の問題である。
三 富士見地区の方々の意向を踏まえ、公共的な利用の案があれば、独立行政法人都市再生機構に申し入れをしていく。
◎その他の質問 無駄・贅沢な改装工事は何のため

